米国 製造業の大幅な落ち込みも貿易摩擦以外の要因（18年5月鉱工業生産）

公表日：2018年6月15日（金）

～部品供給業者の大規模火災の影響で自動車生産が大幅減少～

第一生命経済研究所　経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業(NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業(SIC)	生産能力
17/05	▲0.0	(+2.1)	▲0.4	+0.6	+2.4	+0.2	▲0.6	▲2.1	+76.2	+74.8	+0.0
17/06	+0.1	(+1.8)	+0.1	+1.0	▲1.5	+0.2	+0.2	▲0.6	+76.2	+74.8	+0.0
17/07	▲0.1	(+1.4)	▲0.3	▲0.2	+0.9	▲1.3	▲0.2	▲3.8	+76.1	+74.6	+0.0
17/08	▲0.4	(+1.1)	▲0.2	▲0.6	▲1.5	+0.4	▲0.3	+2.3	+75.7	+74.4	+0.1
17/09	▲0.0	(+1.2)	▲0.1	+1.3	▲0.8	+0.9	▲0.1	+1.3	+75.7	+74.2	+0.1
17/10	+1.5	(+2.7)	+1.3	+1.4	+3.2	+1.7	+1.3	+0.9	+76.8	+75.2	+0.1
17/11	+0.5	(+3.4)	+0.2	+2.0	+0.3	+1.1	+0.3	▲0.3	+77.1	+75.3	+0.1
17/12	+0.5	(+2.9)	▲0.0	+1.1	+3.2	+1.4	▲0.1	+0.7	+77.3	+75.2	+0.1
18/01	▲0.3	(+2.8)	▲0.5	▲1.0	+2.1	▲0.4	▲0.7	▲0.4	+77.0	+74.7	+0.1
18/02	+0.4	(+3.6)	+1.4	+2.9	▲9.6	▲0.6	+1.6	+3.9	+77.2	+75.7	+0.1
18/03	+0.5	(+3.6)	▲0.1	+1.4	+4.1	+0.7	▲0.2	+2.8	+77.5	+75.5	+0.2
18/04	+0.9	(+3.6)	+0.6	+1.0	+3.2	+1.8	+0.6	▲2.2	+78.1	+75.9	+0.2
18/05	▲0.1	(+3.5)	▲0.7	+1.8	+1.1	+0.2	▲0.6	▲6.5	+77.9	+75.3	+0.2

(注)ｶｯｺ内は前年比

５月に鉱工業生産が前月比▲0.1%、製造業生産は同▲0.7%とともに失速

18年５月の鉱工業生産は、前月比▲0.1%（４月同＋0.9%）と市場予想の同＋0.2%に反して縮小した（12－４月合計で0.2%ｐ上方改定）。鉱業が原油価格の上昇による活動活発化により前月比＋1.8%と加速した。一方、製造業は自動車の大幅な落ち込みによって前月比▲0.7%と市場予想の同0.0%（12－４月合計で0.2%ｐ上方改定）に反して14年１月以来の大幅な落ち込みとなったほか、公益事業が２カ月連続の高い伸びの反動もあり前月比＋1.1%と鈍化した。自動車生産は、部品供給業者の大規模火災の影響によるトラック組み立ての混乱を主因に落ち込んだ。この自動車部門を除く製造業生産は、前月比▲0.2%（４月同＋0.8%）と自動車の落ち込みの他部門への影響や前月の高い伸びの反動により減少したが、小幅なものとなった。また、自動車を除く鉱工業生産は前月比＋0.3%（４月同＋1.1%）とプラスを維持した。米国の生産活動は、貿易摩擦の激化を警戒しながらも、内外需要の拡大によって堅調さを維持していると判断される。

業種別では、その他耐久財、化学が加速したほか、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品、印刷・同サポートが鈍化したものの高い伸びを維持した。また、木材が前月までの落ち込みから前月比変わらずとなった。一方、非鉄、一般機械、電気設備・部品、食品・飲料・タバコ、繊維、アパレル、紙、石油・石炭、その他製造業が減少に転じたうえ、プラスチック・ゴム製品が減少を続けた。また、一次金属、加工金属、自動車・同部品が減少幅を拡大した。さらに、コンピューター・電子機器が鈍化した。

稼働率では、設備投資の加速による生産能力の拡大が続く一方、生産の縮小を背景に鉱工業全体が77.9%（前月78.1%）と低下した（市場予想78.1%）。また、製造業は生産の縮小によって75.3%（前月75.9%）と低下した。

３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率では、製造業生産が５月の特殊要因による落ち込みによって＋3.3%（前月＋4.7%）と鈍化したが、鉱工業生産は＋5.2%（前月＋4.1%）と加速し、拡大モメンタムは強さを維持した。

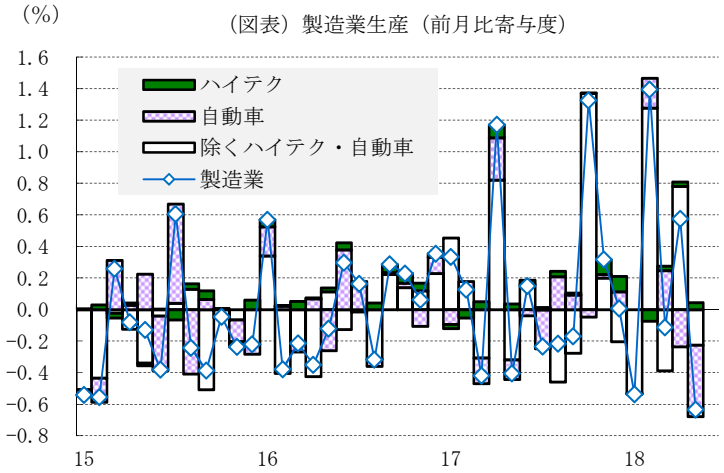
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

４，５月の生産活動は小幅加速し堅調さ維持

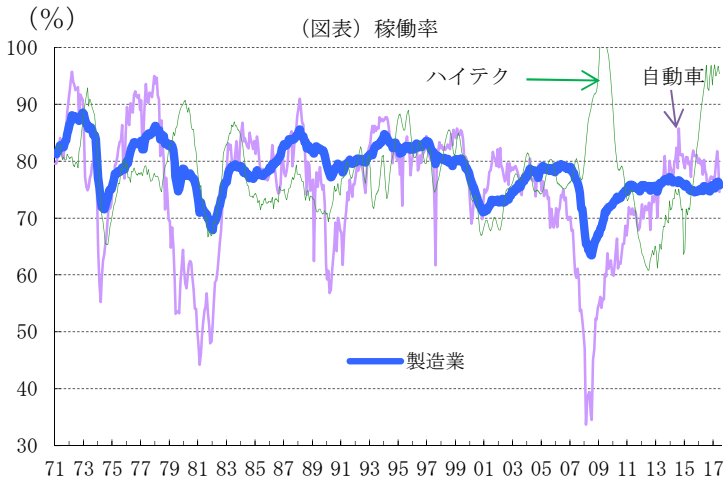
四半期でみると、４、５月の鉱工業生産は鉱業、製造業の加速のほか、公益事業が増加に転じたため前期比年率＋5.5%と１－３月期の同＋2.4%から加速した。製造業生産は４、５月に前期比年率＋2.6%と５月の落ち込みにもかかわらず、１－３月期の同＋1.7%から加速した。製造業生産は、ハリケーン襲来による落ち込みの反動や復旧・復興需要の健在化によって10－12月期に大幅増となった影響で１－３月期に鈍化していたが、再び加速し堅調さを維持している。

18年の生産活動は小幅加速

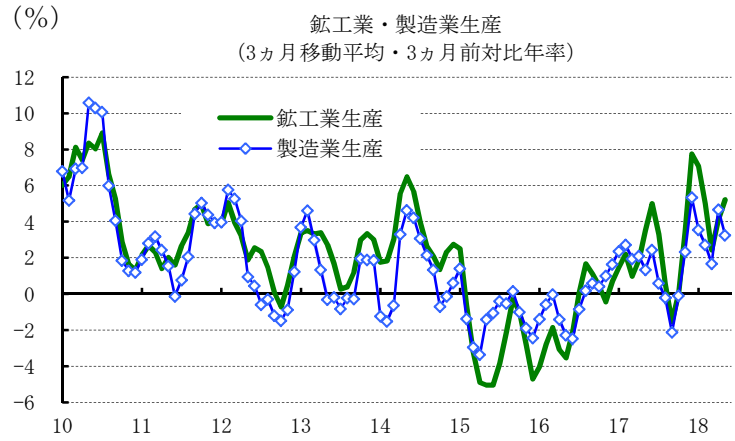
18年の生産活動は、高い水準のドル実効レートや貿易摩擦によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向の持続や原油価格が昨年よりも上昇すると予想されること、在庫に過剰感がないこと等を背景に小幅加速すると見込まれる。18年の製造業生産が＋2.3%（17年＋1.2%）、鉱工業生産が＋3.6%（同＋1.6%）と予想する。



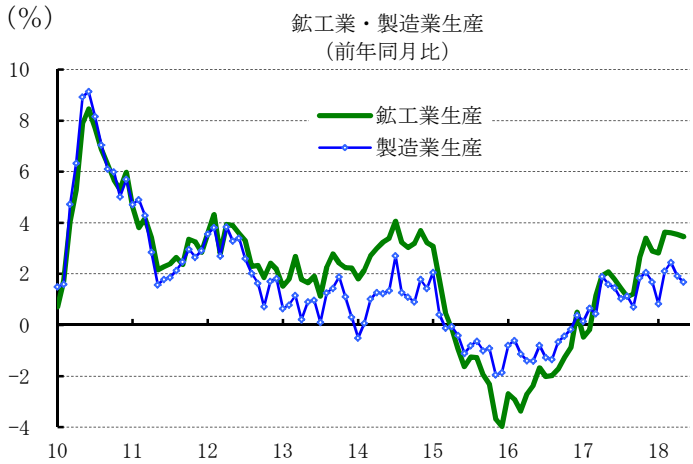
（出所）ＦＲＢデータより作成　　(年/月)



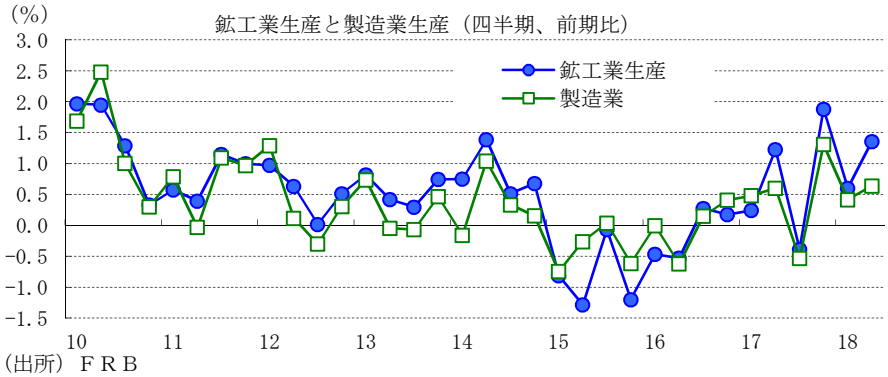
（出所）ＦＲＢ



（出所）ＦＲＢ



（出所）ＦＲＢ



（出所）ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。